

事務局使用

## 入居者主体の生活を目指して

～ありのままを受け止めた食事作りから～

入居者主体

ありのままを受け止める

わがまま

徳島県・藍住町

ふりがな ぐるーぷほーむ おやのいえ  
種別・施設名 グループホーム 親の家

ふりがな かいごふくしし にきあゆみ  
職種・発表者名 介護福祉士 仁木亜由美

共同研究者名 平田 優

共同研究者名 福富 郁代

### 【親の家基本方針】

入居者は介護を受ける人ではなく生活の主役である  
入居者の心の動きに共感しありのままを受け止める

(取り組んだ課題・はじめに)

親の家は、開設当初より決まったプログラムが無く、入居者の声を取り入れ生活を作り上げている。しかし、入居者は施設や在宅生活で、家事等を長い間行っていない等により、あまりご自分の意見を言われる事が無く受動的であった。スタッフ自身も手探りで支援し、いつのまにかスタッフ主体の生活になっていた。今回、開設当初より食事は人が生きる為には必要不可欠だと考え食事作りに重点を置いてきた事を考慮し、再度食事作りを考え直す事により、様々な取組を行なった結果、入居者の変化やスタッフの気づきがあった為報告する。

(具体的な取り組み)

親の家の基本方針を改めて考え、スタッフで何度も話し合いを行ない、入居者が無理をせず楽しんで行なってもらえる事が一番大事である事を前提に、入居者が自分の気持ちを言えるよう常に、入居者と一緒の立場になって考え行動する事を心がけた。

- ① 献立：季節や広告、好きな食材等を取り入れる。
- ② 買い物：1日2回徒歩や車を利用する。
- ③ 調理：リビングの机を主体として行なう。
- ④ 食事：入居者とスタッフが一緒に食べる。
- ⑤ 片付け：キッチンで洗い物を行ない、リビングの机の上で食器等を拭く。

(活動の成果と評価)

献立や買い物、調理の行為を行なう事が目的では無く、入居者が何をするにも楽しんでもらえる事を大切にする事により、少しずつではあるが、活動的になってきている。又、入居者が自分の気持ちを素直に言えるような雰囲気や環境作りをする事により、信頼関係が築け、入居者が「したい」「したくない」との思いを言葉にしてくれるようになった。スタッフは、その支援を行なっていく事が入居者主体の支援に繋がる事に気づき、毎日の生活の関わりの中で、入居者の素晴らしい力を知る事が出来、もっと知りたいと思うようになった。しかし、少し気持ちを緩めると、いつの間にかスタッフ主体の生活リズムを作ってしまう、スタッフが仕事

を行ないやすいような、日常生活になってしまいそうになる。そういう時は、スタッフ同士で気付き合い、入居者にも気付かされている。今後も、スタッフが現状に満足する事なく、常に話し合いをする機会を設け、親の家では入居者が生活の主役である事を念頭に置き、何をするにも入居者の立場になって考え、入居者がワガママになれ、生き生きとした日常生活を送れるようスタッフ全員が統一した支援を行なっていく事が大切である。

(今後の課題・考察・まとめ)

親の家の入居者には私自身が以前から関わっている方もいる。その方達は、以前に比べると、全く違う表情や姿を見せてくれる。私の知らなかった顔を見せてくれる。離れていた距離が、親の家で共に生活を送る事により、近くに感じる事が出来るようになった。入居者と隣で話せる喜びや入居者がご自分の事を話してくれる幸せを感じる事が出来るようになった。私はそれを特別視していたが、当たり前になった。入居者を近くに感じれるという事、入居者もスタッフを身近に感じてくれるという事、それはとても大切な事で、これからも大事にしていきたい。そして、変わり行くスタッフにもこの事を伝えていき、スタッフ全員が統一した支援が出来るようにしたい。戸惑いや、落ち込みのある私をいつもあたたかく癒してくれる入居者にも同じような気持ちになってもらえるよう、親の家の入居者がいつまでも、笑顔やワガママであふれた生活が送れるようこれからも支援していきたい。